

聞いてきました まちの 声

表紙によせて VOL. 1 1

松延工芸 代表 松延 英雄 氏



今回は、八女市龍ヶ原を拠点に手作り桶の製作販売業を営まれている松延工芸を訪ね、3代目の松延代表にお話を伺いました。

1959年創業で、初代・2代目時代は筑後地区に60軒程あった桶屋も、今は松延工芸1軒となっています。ご夫婦で切り盛りされていますが、代表は確かな技術で製作に徹し奥様が企画販売を手掛けられ、「静」と「動」の息が合ったお二人の姿は印象的でした。

手作り桶の歴史についてお聞かせください。

桶は容器類としての歴史があり、木で作る容器として、刳物くりもの（木をくりぬく）、曲物まげ（木材を曲げる）を経て結物ゆいもの（木片をつなぐ）に発展しました。木製容器の最古としては、刳物が弥生時代の遺跡から出土しています。平安時代から日用品として使用されていたといわれる曲物は、関東地方が中心的生産地ですが、福岡県では博多曲物といわれ、伝統工芸品として祭具や日用品が作られています。筑後地区は、材料の木や竹の産地であったことが桶作りに適していたと考えられます。明治時代より漬物桶に始まって、風呂桶、神事用桶など様々な用途の製作がされてきました。

事業の現況等についてお聞かせください。

湯桶、寿司桶、おひつ、漬物桶、更には神事用桶等あらゆる注文に応じて製作しています

が、全て手作りのため時間をいただきながら丁寧に納めています。昔から消費者直接の販売ルートでしたが、近年は商社を通じたネット販売も手掛けています。

今後の目標について教えてください。

伝統工芸として後世に引き継ぐためには後継者の育成が一番の悩みであり課題です。

また、桶作りは地味な仕事で需要も減少していますが、何とか伝統工芸として認定していただけるよう、尽力してまいりたいと考えています。

市議会に対してご意見等をお願いします。

議員の方々は、八女市のために頑張っていると思いますが、敷居が高く話しづらく感じています。べんがら村のリニューアルは喜ばしいことですが、市外の方との価格に差をつける等市民を優遇していただくとありがたいですね。

議会を傍聴しませんか？ 次回定例会

11月30日(水)予定
立花庁舎議場 午前10時から
八女市議会事務局 23-4922



スマートフォンやタブレット端末で
議会中継を見ることができます

<http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/12>
インターネットから「八女市議会」を検索
「議会インターネット中継」をクリック！

編集後記

「ないものねだりをせず、あるものを生かす」地域づくりの要諦と考えています。

受け継いだ持山を再生するため、数年前から林業関連の文献を閲読してきました。

今秋より、山の手入れに必要な作業道の開設に着手する予定です。

そこにある資源を直視し、最大限に生かすことへの第一歩です。

堤 康幸

発行責任者

議長 角田 恵一

議会だより編集委員会

委員長 高橋 信広

副委員長 大坪久美子

委員 松崎 辰義

委員 栗原 吉平

委員 牛島 孝之

委員 堤 康幸

委員 田中 栄一

委員 川口 正信

委員 高山 正信

